井原市民病院だより

No.36

井原市の花　パンジー

2018年4月発行

日本医療機能評価機構　病院機能評価 3rdG:Ver1.0 認定

地域とともに歩む、より愛される病院を目指して

（井原堤）

Mission（使　命）	Vision（将来展望）
地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する	いつでも安心してかかれる、身近で愛される急性期病院

Ibara City Hospital

井原市立井原市民病院

〒715-0019　岡山県井原市井原町1186番地

TEL 0866-62-1133(代)　FAX0866-62-1275(代)

E-mail byoin@ibarahp.jp

診療科目

内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科・眼科
小児科・脳神経外科・放射線科・麻酔科・耳鼻咽喉科
リハビリテーション科・婦人科・泌尿器科・皮膚科
救急科

発行責任者：合地　明

ごあいさつ

院長　合地　明

桜の開花の報が全国各地で聞かれる時期になりました。当院のしだれ桜も満開の状況となっております。今年も見事な花で来院の皆様の目を癒やしてくれることでしょう。

今年は北極振動による異常寒波の襲来やインフルエンザの猛威で非常に厳しい冬でしたが皆様方におかれましては無事乗り越えられ、春を迎えられたことをお慶び申し上げます。

この厳しい冬の間、国内では働き方改革が叫ばれる中、不適切なアンケート集計のミスや文書改ざんなど情報処理に関わってきた私には考えられないような処理で政治が揺れております。一方、国外でも東アジアの情勢に世界中の目が向けられていることなど暗い話題が多かった中、平昌オリンピックでの日本選手の活躍は我々の感動のみならず、様々な教訓を与えてくれたのではないでしょうか？

ソチオリンピックの惨敗を機に４年後、８年後を目指した選手強化における組織体制の見直し、スケートにおける女子団体追い抜きの科学的分析から空気抵抗を少なくする『一心同体』のまさしくチームワーク、能力の異なる選手の力を考慮しての滑走順の決め方、すなわち役割分担、長期間合宿における『あうんの呼吸』の域に達したコミュニケーション醸成の成果を見事に示してくれたと思います。これらのことはカーリング女子においても感じられました。

眼を医療の世界に転じてみると今年は６年ごとの診療報酬、介護報酬の同時改定の年で地域包括ケアシステムの構築を重要課題として、医療介護の連携を推進するための『かかりつけ機能』の評価などが組み込まれました。

我々、中小規模の地域中核拠点病院においても今後、５年後 10 年後の地域における役割を見据えて運営方針を検討、実施していかねばならないと考えています。ことに地域医療構想に基づく包括ケアシステムの構築は少子高齢化に関して世間で言われている 2025 年問題の時期を今、現実に迎え、かつ、医療スタッフ不足に悩むこの地域にとっては喫緊の課題であります。このような中、昨年末より井笠地域の医療関係者が集まり、それぞれの医療機関の役割分担、機能分化を目指して各職種毎の研修会を開催、情報交換のみならず、医療技術等のスキルアップをめざし交流の場が設定されました。

冬季オリンピックで実証されたチームワーク、役割分担、そしてコミュニケーションの実践が我々の病院の中においてはもちろん地域医療の確立においても求められているものと実感し、今後実践していく所存です。

地域住民の皆様方のご意見をいただきながら平成 30 年度の益々の発展を祈念しております。

桜がさきみだれる小田川を優雅に泳ぐ体長 50 センチの鯉（H30.3.25 撮影）

委員会紹介 《NST委員会》

副看護部長　渡邉　栄子

今回は、ＮＳＴ委員会（Nutriton Support Team）の院内外の委員会活動をご紹介します。

ＮＳＴ委員会は、平成17年９月に発足し、院内の入院患者の栄養改善、早期回復を目的に多職種で支援しています。当院は、日本静脈経腸栄養学会（ＪＳＰＥＮ）・栄養推進協議会のＮＳＴ稼働施設として認定されています。

院内での活動として、月１回の委員会開催と毎週火・水曜日の摂食嚥下不良患者を対象とした嚥下ラウンドをもとに金曜日に症例ラウンド検討会をチームで実施しています。

ＮＳＴメンバーは、外科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士、歯科衛生士、理学療法士、臨床検査技師、医事職員でチームを編成しています。

また、院外での活動として、委員会メンバーが中心になり、地域一体型のＮＳＴの構築を目指し、平成20年から「地域栄養研究会」を発足し、地域で暮らす患者さんの栄養管理について情報発信する活動をしています。その内容は、地域の医療・介護を担うスタッフ向けの勉強会を２ヶ月毎（偶数月）開催しています。平成30年２月で59回目の開催となりました。

栄養管理の基礎から、栄養に関連する日常の各種ケア方法、薬剤や検査値について、講義形式や実技、グループワークなどを取り入れ、明日から現場で役立つことを目的に実施しています。さらに、資料作成、講師を務め、手作りで企画･運営をしています。ＮＳＴ委員会メンバーは講師を務めることによって、自らの知識を増やすことやプレゼンテーション能力を鍛えることができ、自己研鑽の場にもなっています。

この活動がこの度、雑誌『臨床栄養』に取り上げられました。これまで地域栄養研究会を支えてくださった地域の医療・介護の皆様や立ち上げから関わってくださった先生方、スタッフにこの場をお借りして深く感謝いたします。これからもこの活動を通して院内外へ栄養管理の情報発信を続け、地域一体型のＮＳＴの一助となれるようにメンバー一同、頑張っていきたいと思います。

「臨床栄養（平成29年10月号）」に掲載されました。

第２回教育従事者対象小児医療講習会

総務課　立石　延代

平成29年12月27日、今年度２回目となる教育従事者対象小児医療講習会を開催いたしました。前回のアンケートを参考に「頭部外傷時の注意点」と「出血を伴う外傷の応急処置」といった外傷をテーマに、当院小児科非常勤医師 小田　慈先生と救急科医長 寺戸通久先生を講師に開催しました。

今回は、井原市だけでなく矢掛、笠岡、浅口など岡山県西南部広域から保育士、小・中・高等学校の養護教諭など教育機関の関係者27名にご参加いただきました。

内容は包帯法などの出血時の対応や頭部打撲時の頚椎保護の重要性、その場の対応方法など、実践に即した内容で参加者の満足度も非常に高かったように思います。

また事前アンケートを行い具体的な質問を募集したところ、大変多くの質問が寄せられました。日々の校内業務の中で生じた疑問に２人の先生方が１つ１つ丁寧に答えてくださり、終始和やかなムードで会が進んでいきました。参加者はみな真剣にメモを取り、実技では笑顔で取り組む姿を見て、この講習会を通じて医療機関への壁が低くなり信頼が深まったことを実感しました。

講習会後のアンケートでは、「全職員へ知識を共有したい。」「職員研修の機会に伝えたい。」「保護者に説明する時に役に立つ。」という意見があり、すぐに現場で実践できる知識やスキルの習得を目的に参加されているのだと感じました。

どこの市町村でも少子化対策が急務である中、教育と医療の連携が進んでいくことにより、子どもたちが安全に学校生活を送ることができ、井原がより「安心して子育てできるまち」となるよう市民病院として一端を担っていきたいと思います。

医療安全研修を終えて

医療安全管理室長
看護師長　森　茂子

「暴言・暴力発生時の対応
～コードホワイト知っていますか？
あなたもホワイトチームの一員です～」

平成29年9月15日(火)17：30～18：30、当院1階外来ロビーにて全職員を対象に「暴言・暴力発生時の対応」研修を開催しました。

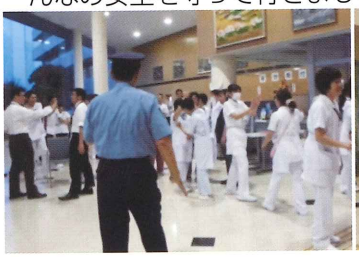
この研修を開催するきっかけは、病室で患者家族から暴力を受ける事件が起きたことからです。

この時、『コードホワイト』がうまく稼動せず、どう動けばよいのか迷いました。前回の研修から2年半が経ちコードホワイトについての記憶が薄れたこと、研修を受けていない職員もいることから、井原警察署地域課のご協力をいただき実施することにしました。当日は84名と多数の参加があり、関心の高さが伺えました。

研修では、刺股（さすまた）の使用方法と実際に暴力を受けた際の護身術について実演方式で研修しました。刺すまたの使用にでは、初めは恥ずかしそうにしていましたが、だんだんと熱が入り迫真の動きに変化し、これならコードホワイトの呼び出しがあっても大丈夫と思いました。

次に、護身術では、講師の説明を聞きながら実践しているのに講師のようにうまく体が動かない。さすが合気道の達人。自分はあまり力を入れず相手の動きをかわす。相手に対しどこまでできるか心配ですが、全ての動きをマスターするのは無理でも1つでも身につけておくとよいと思いました。

しかし、暴力行為に対しては、決して1人で対応することをせず、「人を呼ぶ」。身の危険を感じたら、「逃げる」。「警察を呼ぶ」。これからも暴言暴力が発生することが無いとは言えません。その時は、コードホワイトを発動しましょう。そしてホワイトチームで対応する。みんなの力で、みんなの安全を守って行きましょう。



「井原デニム」

総務課主事　立石　延代

井原市では、いつまでも健康ではつらつと生きる町を実現するために、「健康寿命日本一を目指したまちづくり」を目標に取り組んでいます。当院でもその一端を担うべく、今年度よりドック・健診部を新設し、健診を通して地域の皆様の健康維持のために様々な試みを始めました。

この度、地域の皆様に親しまれ、健診への関心を高めていただくことを目的に、井原市特産の「井原デニム」を使用した健診衣の製作を行いました。デザインや生地の選定から始まり、健診衣としての機能性や耐久性、着心地といった快適性など、院内の多職種で協議を重ね、井原市地域創生課や地元企業の方々にもご協力を頂き完成に至りました。製作過程において井原市が世界のデザイナーに選ばれるデニム生地を生産していることや今もなお日々改良を続けていることなど地域産業の歴史について触れる良い機会となりました。

そして、歴史ある井原市を守り、さらなる発展ために尽力する地域社会の健康を守ることが私たちに課せられた次世代への義務であると強く感じました。

今後は、「健康寿命日本一」への取り組みとして、自覚症状が少なく受診に結びつきにくい生活習慣病を中心に精査と治療の重要性を伝えるなど、多職種が協力してフォローアップ体制を構築することが最優先課題となります。

これからも、忙しい日常生活を送る地域の皆様にとって、「健診の日」が自分の身体と向き合い、生活習慣を振り返る機会になるようスタッフ一丸となって努めてまいります。

ドック・健診部運営会議メンバー

井原デニム健診着

全国自治体病院学会発表

平成29年10月19日(木)～21日(金)の2日間、第56回全国自治体病院学会が幕張メッセ(千葉県)で開催され、当院から次の6題がエントリーし発表いたしました。

- 「整形外科のケアミックス病床管理について」
  診療部長　平田 哲男
- 「適正で安全な救急診療における放射線技術」
  放射線科　診療放射線技師　村木 基義
- 「当院における反重力トレッドミルの使用現状と課題」
  リハビリテーション科　主任理学療法士　池田 慎太郎
- 「地域在住要介護高齢者の社会参加を目指した短時間通所リハビリテーションの取り組み」
  リハビリテーション科　理学療法士　和田 温美
- 「糖尿病治療中断を繰り返す患者を多職種と家族が連携し介入した一症例を分析して」　5階病棟　看護師　森 里己
- 「地域包括ケア病棟での退院支援の現状」
  3階病棟　看護師　鈴木 麻由

第７回井原市民病院健康まつり

事務次長　田平　雅裕

平成 29 年 11 月 19 日（日）、「第７回井原市民病院健康まつり」を開催しました。

当日は、冷たい強風の吹く天候でしたが、例年同様多くの地域の皆様方にご来場いただきました。

合地院長の開会挨拶のあと、今回新たに健康、健診をテーマに募集した「健康川柳」の入選作品の表彰を行いました。続いて、くらしき作陽大学食文化学部栄養学科教授　坂本 八千代 先生に「食べて健康　長寿実現」の演題で特別講演を賜りました。昨年に引き続き、トランペット奏者 﨑谷 由佳利さん、安部 千晶さん（ピアノ）、高田 正弘さん（サクソフォン）によるロビーコンサートや新聞紙を使った健康体操、井原消防署によるＡＥＤ講習などを開催しました。

また、「小児なんでも相談」や「血管年齢検査コーナー」、「認知症検査コーナー」、子ども向けの「なりきり看護師さん・お医者さんコーナー」など１１の健康・体験コーナーには、子どもさんからご年配の方まで沢山の人が詰めかけ大盛況でした。展示コーナーでは、新たに人間ドックの健診衣として製作したデニム生地の作務衣のお披露目展示と、実際に職員が試着しＰＲを行いました。

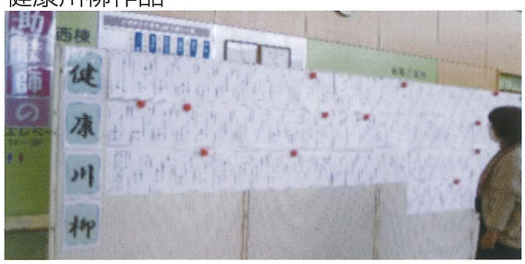
今年度も多くの方々のご協力のもとに、盛会裏に健康まつりを開催することができました。紙面をお借りして心からお礼を申し上げます。

正面玄関

開会・基調講演

ロビーコンサート

健康川柳作品



【健康川柳入選作品の紹介】

院 長 賞　『健診で 家族に「安心」プレゼント』

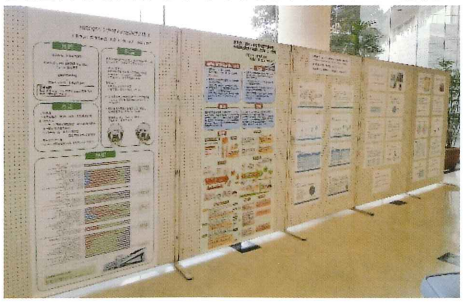
副院長賞　『ウォーキング ピンピンコロリが あい言葉』

〃　『限りある 命の点検 検診日』

健診部長賞　『ドック受け 転ばぬ先の 杖をつく』

多数の応募ありがとうございました

自治体病院学会での発表ポスター展示



消防はしご車展示（井原消防署）

救急車展示（井原消防署）

健康体操（リハビリ）

地域医療体験実習を終えて

東森 凌司　(H29.9.4～9.8)
岡山大学医学部医学科1年生

私は生まれも育ちも井原で、井原市民病院には幼少期からずっとお世話になっていました。将来、地元で働いて恩返しがしたいと思っており、また、地元の病院の医療を知りたいと思っていたので、最初の実習先を井原市民病院とさせていただきました。

井原市民病院は井原市地域における中核病院として機能しており、多くの診療科があり、多くの患者さんが訪れ、多くの医療スタッフが働いていました。そこでの医療は、かかりつけ医としての基本的なものから、医院から紹介された高度なもの、川崎や福山市民病院から紹介された術後のケアなど幅広いため、医師は幅広い知識や技能をもって対応していました。

私が井原出身ということもあり、合地院長から井原の医療の問題点を教えていただきました。合地院長は就任されてから様々な改革を行っており、問題の多かった井原市の医療は改善してきています。病院の管理栄養士である私の母から聞いた話では、井原で救急車のたらい回しが頻発していたそうです。しかし、合地院長は救急科を設置し、救急受け入れ率は格段に上昇しました。井原市民病院では治療できない救急患者は、福山や倉敷の病院に送りますが、その橋渡しの拠点ともなります。私は地域医療を勉強しているのですが、救急科のある地域医療病院は珍しいのですが、井原地域であるからこそ必要であると思います。

また、滝本市長とお話させていただく機会をいただきました。井原市の現状や井原市の将来についてお話させていただき、私が将来働くとしたらどんな感じだろう、井原をより良くするために何ができるだろう、と想像しました。井原市の諸問題の根本にあるのは少子高齢化と若者の地域離れですが、やはり私の同級生も都会で就職する人が多いようです。
井原市をより良くしたいと思う市民の方々が、魅力をみつけ、あるいは作り、発信していくことが大事だと思います。私も井原の魅力である、患者様の「笑顔」をつくれる医師になれるよう、勉学に励みます。

最初の実習ということもあり、やはり緊張していましたが、合地院長をはじめに多くの方々の親切さや温かさのもと、無事、医療実習を終え、1年生ながら多くの経験を積ませていただきました。本当にありがとうございました。

久保 卓也　(H29.10.2～10.6)
岡山大学医学部医学科3年

10月上旬から1週間、井原市民病院で地域医療体験実習をさせて頂きました。まずに、右も左もわからない学生を受け入れ、たくさんの学び・経験を与えてくださいました、井原市民病院の皆様、そして、治療場面を共有してくださいました患者様をはじめとする地域の皆様にお礼申し上げます。

今回の実習では何よりも感じたことは、井原市民病院で働かれる皆様の、井原という地域を支えようとする熱い思い、そして、地域の皆様の井原市民病院に対する信頼です。

私は大学で、病院には3つのタイプがあると学びました。1つは、患者さんを専門科に関わらず診療することを主とする「最初にかかる」病院。1つは、ほぼ全ての診療・処置をカバーすることを主とする「地域の中心」病院。1つは、住人1000人のうち1人(0.1%)程度の、一握りの高度・特殊な医療を必要とする患者さんへの処置を主とする「高機能」病院です。しかし、「地域の中心」、さらには「高機能」病院につれ、「治療をする、うける」の関係性が強まり、もっと土台にある「人と人」の関係性が弱まりがちであることも、大学の講義でお聞きしました。

しかし、ここ井原市民病院は「地域の中心」病院であるにも関わらず、まるで「最初にかかる」病院のように、「人と人」の関係が息づいていると思わされました。これはきっと簡単なことではないのでしょう。井原市民病院で働かれる皆様の熱意と、地域の皆様の信頼が両方あって、初めて実現したものなのだろうと推察しております。今回の実習では何度も、全国に井原市民病院のような心の通った病院が増えれば、どんなにいいだろうと思わされました。

このような素晴らしい病院・地域で実習させて頂いた経験を糧として、今後も精進していきますので、機会がありましたら、今後も皆様からご指導をいただけましたらうれしいです。

最後に、繰り返しにはなりますが、たくさんの学び・経験を与えてくださいました井原市民病院の皆様、そして、地域の皆様にお礼申し上げます。

福 武 功志朗　(H29.12.18～12.22)
岡山大学医学部医学科3年生

私はこの実習の前にこの実習中に地域に特性を病院だけではなくその他の地域の施設を通して学ぶということに重点をおいて行かせていただきました。もちろん病院の雰囲気、そこに来る患者さんの表情などもしっかり見ることができました。病院のことでいうと、この井原市立井原市民病院は毎朝診察開始のときに待合室に向かって挨拶をしているのがとても印象的でした。患者さんを第一に考えて良い医療を提供しているんだなと思いました。同時に、挨拶は人とかかわるうえで第一印象にとても結びつきやすく、これがあるのとないので病院の印象が全然違うなと思いました。

病院外で一番印象的だったのは、きのこエスポアール病院でした。精神疾患のある患者さんにとってストレスである「病院に入院してる」という概念を払拭するために病院を設計して診療を行っている病院を初めてみて感動しました。患者さんがまるで自分の家にいるかのような雰囲気の病室やリビングのようなところもあってほんとにアットホームな感じでした。このよ

うな一つの疾患に特化した病院も総合病院とは異なった良さがあるということに気づけて良かったです。

実習全体を通して、まずはいままで岡山に住んでいたにもかかわらず、行ったことがなかった井原市に行くことができ、なおかつ井原市の特色を知ることができたのが大きな実習の成果だと思います。そして病院内では様々な診療科や患者さんに対するNSTなどの活動が見れて他にはない井原市立井原市民病院という病院を見たという感じがしてとても充実しました。また、消防署やきのこエスポアール病院、そのほかの診療所などにも行かせていただき、そこで先生のお話を聞かせていただいたり、リハビリのことについて同伴しながら聞かせてもらったりして知識がつきました。この実習に来れて本当によかったです。

ありがとうございました。

統合実習（地域連携）を通しての学び

（H29.9.4～9.8、H29.10.23～10.27）

吉備国際大学　保健医療福祉学部　看護学科

山田育子

井原市民病院で地域連携実習をさせて頂いて、職員全員がフレンドリーで、職員間の繋がりが強く、温かく、看護職、人間性の側面を磨けた素敵な場所でした。この関係性が、患者を退院後まで支援できる大きな力になることを学ぶことができました。実習中も、受け持ち患者の各職種の情報を知りたい時は、快く対応して下さったことで、広い視野で患者を捉える必要性を見出すことができました。

実習の中では、看護職として必要な事だけでなく、自分の強み、弱みに気付ける機会にもなりました。どちらも自分では気づけなかったことで、自分自身大切にしていきたい要素であり、看護師になる前の今、気付けたことが嬉しかったです。

今後は、看護師としても、人間としても成長した一人として働いていきたいです。

私は地域連携実習で、一人の患者さんを受け持ちました。その中で看護師は入院した時から退院に向けた支援を考え、患者さんが生活の場に帰っても安心して暮らせるように多職種との連携を図り、サポートしていることを学びました。

湯河佳子

患者さんの身近な存在である看護師が、住み慣れた地域へ帰りたいという患者さんの気持ちに傾聴し、理解することが大切であると知り、患者さんからの思いや不安な気持ちを看護師が多職種に情報共有を行ことで、患者さんの意向に沿った支援が考られ、支えていくことができることを学びました。そして、みんなで同じ目的をもってサポートしていくことが、退院後安心・安全に地域で過ごすことができるのだと思います。さらに、患者さんを中心にサポートしていくためには看護師の存在は大きなものであると改めて感じ、患者さん自身の思いだけでなく、家族の方の意向も尊重することも大切であると学びました。看護師は生活を見るという視点を持ち、患者さんが帰ってどのように生活していくのかをイメージすることが重要であると思います。

私は今回の学びから、患者さんの入院中のケアだけでなく、気持ちに寄り添う看護を行い、家に帰っても安心した療養生活が送れるように、生活の視点をもって考えられる看護師となりたいと思います。

越智淳子

今までの実習では、患者さんの病気の治療や症状ばかりに注目しがちであったが、今回の実習を通して、それだけではなく患者さんや家族の今後の生活を見据えて考え支援していく視点が大切であるとより学ぶことができました。

実際に退院支援に関わらせていただき、決して医療従事者側の思いばかりを優先した関わりを行うのではなく、本人・家族が納得して生活を送れるように今までの生活背景を考慮し、今後その方にとって最善な方法は何かなど現在の姿だけではなく、何か月～何年後も見据えた広い視点を持つことが退院支援では大切だと学びました。また、一人の患者さんの健康で安全・安心の生活を支えるためには、多くの多職種が連携していることを改めて学ぶ機会にもなり、それぞれの職種の専門性を活かした関わりや患者さん・家族に対する思いや寄り添う支援を感じることができました。これらは机上では学ぶことのできない貴重な学びとなりました。今後働く際にもこの学びを活かし、さらに成長していきたいと思います。一週間ありがとうございました。

猪原恵子

今回の実習で私は、地域包括病棟の患者様を受け持たせて頂きました。病状の理解、患者様に携わる多職種連携の実際、退院支援に向けての必要な視点について学びを深めることが出来ました。

退院支援は、患者様・ご家族の退院後の生活に対する思いや生活背景、生活環境をしっかりと捉え、退院後どのような支援が必要かという視点を持って入院時から関わる事が必要です。また、看護師はチーム医療における患者様・ご家族のキーパーソンとして、広く多職種を理解し、患者様の全体像を掴んだ意思決定支援を行う役割があることを学びました。そして、退院支援は病院内だけでなく地域の支援と繋げていくことが重要であると感じました。実習のなかでケアマネジャーや施設の運営スタッフ、ケア会議等に参加させて頂き、患者様に寄り添った強い思い、顔見知りの関係作りの重要性を学びました。

1週間という実習期間に様々な機会を与えて頂き本当に有難うございました。

健康教室のご案内

開催日：偶数月　第３水曜日　　時間：11 時 30 分～ 12 時　　場所：玄関ロビー

月　日	内　　容	担　当
6 月 20 日	「健診のススメ」	ドック・健診部
8 月 15 日	「お口の健康～歯は生涯を通じてのパートナー～」	歯科衛生士
10 月 17 日	「井原市近隣の社会資源について～施設・サービスの特徴について～」	社会福祉士
12 月 19 日	「尿検査からわかること」	臨床検査技師
H31 2 月 20 日	「コレステロールについて」	管理栄養士

予約の必要はありません。どなたでも参加できます。

糖尿病教室のご案内

開催日：毎月　第１水曜日
時　間：11 時 30 分～ 12 時
場　所：玄関ロビー

6 月 6 日　「実は深い歯周病と糖尿病の関係」　　歯科衛生士
7 月 4 日　「今日からできる　血糖コントロールを良くする食事」　　管理栄養士

子育てサロンのご案内

開催日：毎月第２水曜日
時　間：13 時 30 分～ 14 時 30 分
場　所：玄関ロビー
講　師：小田　慈 医師

4 月１１日　「環境の変化の影響　～見逃さない子供のサイン～」
5 月　９日　「成長と発達　～発達障害？と思ったら～」
6 月１３日　「こんな時は急いで受診！～よくある症状での見極め～」
7 月１１日　「子供の食事　～離乳食から食育まで～」

日帰り旅行第一弾　大歩危峡遊覧船＆高知へ行ってきました

むつみ会　　看護部　石井　美由紀

平成 29 年 8 月 26 日（土）、病院職員とその家族の 27 名で四国徳島と高知方面へ日帰り旅行に行きました。当日の出発時、あいにくの雨でしたが、参加者の皆様の日頃の行いのおかげですぐに天候は回復しました。大歩危峡では、遊覧船で吉野川の川下り。激流で削れた岩とまわりの新緑、清流の美しさを楽しみました。

昼食は、本場カツオのたたきは絶品でした。最近メディアでよく取り上げられているひろめ市場では、和･洋･中と様々なお店が集まり、屋台村のようになっており、色々な食事が楽しめる場所でした。

その後桂浜では、太平洋の雄大さに心洗われました。家族も参加で日頃職場での顔とは違う、家庭人としての姿を見る事ができて、新たな発見もあり、またおチビちゃん達の可愛さには心ほっこりさせてもらいました。

帰りに見た瀬戸内海に沈む夕陽は、とてもきれいで明日への仕事の活力をもらえた旅行となりました。

おかやまマラソン 2017 11.12 救護班活動

１１月１２日（日）開催されたおかやまマラソン２０１７に、当院から合地院長をはじめ医師４名、看護師３名、理学･作業療法士５名が参加し３２Km 地点救護所（岡南大橋東詰）において救護活動を行いました。

ボランティア活動　「ひまわり」花壇整備

１２月８日（金）、井原市民病院ボランティア「ひまわり」の会員の皆さんによる正面玄関花壇整備があり、色とりどりのパンジーが植えられました。会員の皆さんには、日ごろは総合案内のボランティア活動をしていただいております。